

# 平岡塾

# 英語+aの学びで 「一生使える英語力」を身につける

本物の英語力が身につく塾として評価が高い平岡塾。男女御三家をはじめ名門中学・高校の生徒が数多く通い、東大合格率80%超と高い実績を誇る。その源泉にある、生徒たちを惹きつける教育とは？

“平岡英語”的真髓に迫った。

## 楽しみながら自主的に学べる ユニークな授業スタイル

絨毯の上に頑丈なイタリア製のローテーブル(座卓)。自由な姿勢でテーブルを囲む生徒たち。テキストやプリントの横には、各自用意した飲み物や軽食が…。学習塾のイメージとはかけ離れた雰囲気。それが平岡塾のスタイルだ。一般的な講義のようにすべての生徒が同じ方向を向いているのではなく、講師が生徒たちの間に入っていき、活発な質疑応答が展開される。

「現代の寺子屋」ともいえる独自のスタイルを貫いている平岡塾。人に迷惑を賭けない限り、何をやってもOKというおおらかさは、創設時以来変わらない。

「自由なスタイルで、講師が生徒の目線に立って指導する。生徒が授業に集中

できる環境を追い求めた結果が、この寺子屋スタイルなのです」(大町慎治代表は、このように語る。

## 「習うより慣れろ」ではなく 「慣れるまで習え」

中学1年から高校3年までを対象とする平岡塾。自由なスタイルとともにこだわっているのが、「教えてもらう」のではなく、「学ぶ」という積極的なプロセスの修得だ。なぜ塾に通うのか、何を学びたいのか。生徒一人ひとりとのコミュニケーションを通して、『気づき』を見守り、信頼関係を築く。平岡塾の学びはそこから始まる。

学びのベースになっているのが、大量に課される宿題。毎回の授業で、読解文法、英作文それぞれB4版1~2枚の

宿題プリントが配布される。

「語学の修得に近道はありません。「習うよりも慣れる」ではなく、「慣れるまで習え」という姿勢で、たくさんの英文に触れて自分の力で問題を解くこと。その

オーソドックスな積み重ねでしか本物の英語力は身につかないと考えています」(大町代表)

授業は、この宿題の英文をすべて音読・答え合わせをすることからスタート。その際、正解を確認して終わりではない。間違えた生徒がいた場合、なぜそう考えてしまったのか、思考のプロセスを教師と生徒全員で検証していくのだ。時間も手間もかかる方法だが、考え方そのものを修正することができるのだ

という。

「考えてしまったのか、思考のプロセスを

読書・答え合わせをすることからスタート。その際、正解を確認して終わりではない。間違えた生徒がいた場合、なぜそう考えてしまったのか、思考のプロセスを教師と生徒全員で検証していくのだ。時間も手間もかかる方法だが、考え方そのものを修正することができるのだ

という。

「教材が古いと思われるかもしれないが、明快ながらも力強く格調高い英語が、海外の研究者と対話等に渡り合える英語力を養いたいのです」(大町代表)

だからこそ授業で展開されているのは、単なる英語の知識にとどまらない。文法・単語のニュアンスの違い、アメリカ・イギリス・オーストラリア英語の発音の差、英語圏の文化文明・英語を通じて幅広いものの見方を身につけられる場所。また、ともに学ぶ仲間と切磋琢磨し合い、刺激を与え合う場所。平岡塾を「知的好奇心を満たせるサロンみたいな場所」と表現する卒業生もいるという。

ちなみに平岡塾の卒業生には、医学

の世界で活躍している人も数多くいる。最新の診療治療方法を調べるために海外の論文を調べる、国際学会で発表する、また外国人患者とコミュニケーションをとるなど、仕事の上で英語の必要性を痛感することが多いとか。平岡塾で身につけた本物の英語力が、医学の世界でも確実に実を結んでいるのだ。



平岡塾 代表 大町慎浩氏



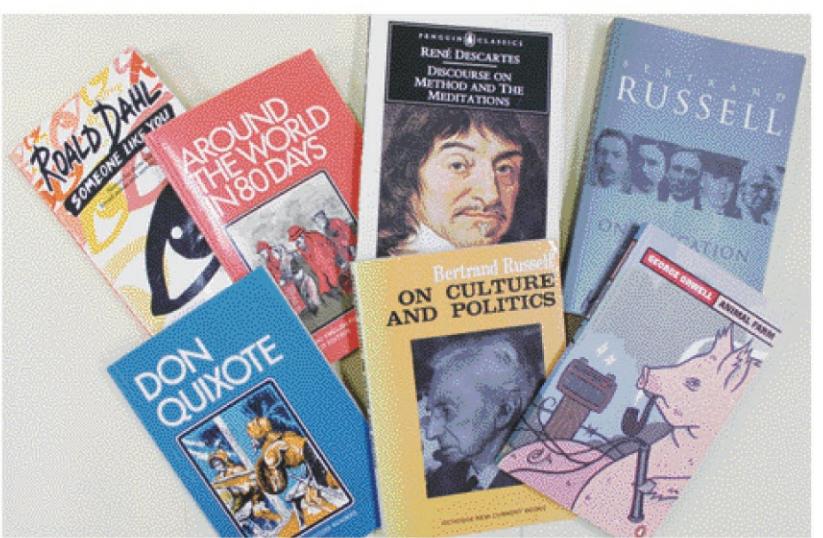
寺子屋スタイルの授業風景。生徒たちは自由な雰囲気の中で学ぶ楽しさを知り、「自ら学ぶ」意識を高めています。

## 受験英語にとどまらない 幅広い学びが 将来につながる

行うほか、長期休暇中にメールで添削指導する「e-ライティング」も導入。難関大学の入試傾向にもマッチした指導で、生徒の大きな強みになっている。

このように平岡塾では、一般的な受験英語の枠を超えたハイレベルな内容をこなす。その結果の現れの一つが、難関大学への高い合格実績だ。

「しかし、大学受験はあく



平岡塾で使用している教材。ラッセル、オーウェルなど、古典的名著の名文を中心だ

## 平岡塾とは

名門中学・高校の生徒が数多く通い、東大合格率80%超(2012年度175人中159人合格)と高い実績を誇る英語専門塾。合格実績もさることながら、受験のための英語ではなく、一生使える“本物”を身につけられるとの評価が高い。実際、卒業生の多くの高い英語力を活用、各分野の第一線で活躍している。



平岡塾著の「日本のダメ英語」を叩きなおす